

少子高齢化の進展により高齢者や障害者の自立や介護を支援する福祉機器に注目が集っています。

その一方で基本的な選び方や使い方がなされておらずトラブルになるケースもあります。

本会では国際福祉機器展の利用者アンケートや相談内容をもとに「はじめての福祉機器Q&A」を作成し、基本的な選び方や使い方について情報提供をしています。

Q1 住宅に段差があります。段差解消機を設置したいと思っておりますが、設置の際に気をつけること、使用していく上での注意点を教えてください。

住宅の内外に段差があると生活範囲を狭めてしまいます。そのため段差解消機を活用することを検討してください。

段差解消機は、福祉用具として位置付けされていますが、建築基準法上も特殊な構造のエレベーターとして位置付けされています（持ち運び可能なタイプ、据え置くだけのタイプでは、建築基準法の適用を受けないものがあります）。

従って安全装置についても規定されていますが、使用上の安全確保には、先ず安全装置の正しい使用方法を守ることが前提となります。

段差解消機は、設置場所によって直進して使用するタイプ、直進できない場所ではL字に昇降するタイプと分かれています。段差も45mm以上1500mm程度に対応できる商品が揃っています。それ以上の段差でも対応できる機器や、特注で対応することもできますので専門職と相談してください。

設置方法としては床面に直接置くタイプ、床に埋め込んで使うタイプがあります。床置きでは、床面が水平である必要があります。水平でない場合や地面の場合には、住宅改修でコンクリートを打つなど床面を水平にし、がたつかないようにします。

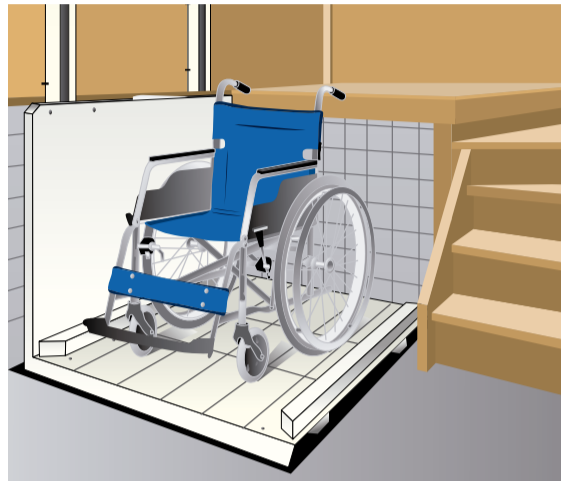
玄関の土間など周囲の床面と水平にする場合には埋め込みタイプを使います。そのためにはピット工事と言って、機器が下がった状態で水平になる様に床面を下げる工事をします。ピット内に水が溜まらないよう水抜き排水工事が必要です。

段差解消機の大半は電動式ですが、手動式もあります。折りたたんで場所を移動させて使用されます。

介護保険制度では、貸与サービスが受けられますので、貸与対象機器の選択が必要です。段差解消機の種類は、選択肢が増えていますので、使う目的、場所、操作性など専門職のアドバイスを受ける必要があります。

段差解消機は外部への出入りに使用されることが多くなっています。屋外用の機器を風雨から守

段差解消機



るためには、機器用のカバーも市販されていますが、直接雨から守るために屋根を付けることをお勧めします。階段が滑りやすい雨天時の外出にも有効です。

段差解消機の設置場所から道路までの移動部分の整備は、介護保険制度の住宅改修を利用できます。設置工事に要する費用は、各市区町村の補助制度などが利用できる場合がありますので確認してください。

安全装置はついていますが、使用時には幼児がいないか、犬猫などのペットがいないか、石が転がっていないかなど必ず周囲の安全を確認しながら操作をしてください。使用後は、キースイッチを切り、キーを責任ある方が管理し、いたずらや事故を防ぐことに努めましょう。

正常な使用をしていることが前提で1年間の製品無償保証がありますが、その後は任意の有償定期点検となります。安全確保のためには、メーカー点検を依頼することが必要です。

Q2 階段昇降機を設置したいと思っております。設置の際に気をつけること、使用していく上での注意点を教えてください。

階段昇降機は、福祉用具として位置付けされていますが、建築基準法上も特殊な構造のエレベーターとして位置付けされています。従って安全装置についても規定されていますが、使用上の安全確保には、先ず安全装置の正しい使用方法が前提となります。

階段昇降機には、「いす式階段昇降機」と「車いす用階段昇降機」があります。いす式階段昇降機は一般住宅で使われていますので、目にする機会があると思います。車いす用階段昇降機は近年、公共建築物のバリアフリー化が進み、駅の階段に設

階段昇降機



置されているのを見かけたことがあると思います。ここでは住宅に使われるいす式階段昇降機について説明します。

階段には直線階段と曲線階段がありますが、いずれの階段であっても対応できる機種があります。基本的には直線階段用の機器の方が、費用がかからないと考えてください。

また階段の材質は木製、コンクリート製、鉄製などいずれでも取付けできます。階段の段板に昇降機の荷重が分散する構造になっているため、段板が老朽化している階段では階段そのものの補強の必要性が出てくることもありますので注意が必要です。

また、木造2階建以外の建物に設置するには建築基準法上の確認申請が必要となります。設置の際には先ず専門職やメーカーに相談しましょう。

使用する機種を選択、標準仕様以外のオプション機能の必要性、使用する方の身体状況や建物の周辺の状況によっては、「いすに移乗しやすいように手すりを壁につけるなどの周辺の住宅改修をおこなったうえで、更に、安全に使いやすくする」など、いす式階段昇降機さえ設置すれば、階段昇降が楽になるという安易な判断にならぬよう専門職との打合せをしっかりとこなしてください。

設置工事に要する費用については、各市区町村の補助制度などが利用できる場合もありますので、事前に確認をしましょう。事前の現場調査や届出が済めば取付け工事は1日で完了します。

安全に使用していくにあたっては、専門職から安全確保のための必要事項の説明を聞き、更に取扱説明書から十分な知識を得てください。運転にはキースイッチを入れる必要がありますが、使用後はスイッチを切り、キーを責任ある方が管理することなども必要です。

長く安全に使っていくには、アフターケアが重要となります。1年間の製品無償保証期間後も任意の有償定期点検契約を結ぶことをお勧めします。